

1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月10日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 0870301264 |
| 法人名 | 有限会社 久保田電気 |
| 事業所名 | グループホーム 土浦マロン館 |
| 所在地 | 茨城県土浦市菅谷町1358-1 (電話)029-831-7086 |

| | | | |
|-------|---------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 認知症ケア研究所 | | |
| 所在地 | 茨城県取手市井野台4-9-3 D101 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年8月8日 | 評価確定日 | 平成21年2月25日 |

【情報提供票より】(平成20年7月24日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|------------------|--------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 10 月 4 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤12人, 非常勤2人, 常勤換算 | 9.0人 |

(2)建物概要

| | |
|------|----------------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り |
| | 1階建ての 階 ~ 1階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-----|---|
| 家賃(平均月額) | 36,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(150,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,100 円 | | | |

(4)利用者の概要(7月24日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 5名 | 女性 | 13名 |
| 要介護1 | 4名 | 要介護2 | 6名 | | |
| 要介護3 | 8名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 84歳 | 最低 | 64歳 | 最高 | 93歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 神立病院 |
|---------|------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑の多く、静かな環境のもと広い敷地の中に位置している。ホーム内も広々としており、利用者は季節感を感じながら、自由にゆったりと思いに過ごせる空間となっている。職員は家族の代わりとしてケアのお手伝いという考えで個性を尊重しながらコミュニケーションをとっている。利用者の表情も明るい。地域交流には積極的で地域の活動に参加したり、小学校や地域ボランティアとの交流も盛んである。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|-------|--|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) | 地域に対して理念を理解してもらえるように民生委員の協力を得る工夫をしたり、災害時の備蓄に力を入れるなど、現在も改善にむけて進行しながら取り組んでいる。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) | 職員は外部評価の意義を大切に受け止め、自己評価の作成に取り組まれている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) | 定期的開催をされており、メンバーの協力を得ながら様々な意見や情報をもとに、運営・ケアサービスに活かしている。会ごとにメンバーとホーム側との関係性も深まっている。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) | 利用者の生活状況や健康状態などは面会時に家族に積極的に話すよう職員共々行っている。行政の苦情窓口に関する情報を家族に説明し、対応が整っている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) | 地域のボランティアや介護相談員の受け入れ、地域活動への参加、同業の福祉施設との交流など連携を積極的に図っている。近隣の方が散歩の途中、立ち寄りこともあり、日常の関わりがある。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 昨年の評価の意見をもとに、地域の中でともに支えあう関係が築き暮らしていけるよう独自の理念を作り上げ取り組んでいる。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員間で話し合い、利用者のことを考えながらケアに生かせるよう具体的に話す場を設けている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域活動に参加し、小学校長や老人会会長がホームに立ち寄れるよう交流を深め関係が保てるよう取り組んでいる。近隣の方との交流にも努め、訪問してくれたり、野菜をもらう事がある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価に関しては、職員が話し合ったことを管理者がまとめ作成し、全員で取り組んでいる。評価での意見が改善できるように話し合いの場を多く設け、職員全員で関わることで改善に努めている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度開催しており、ホームの状況を各メンバーに報告している。あらかじめ、メンバーには会の議題などをお知らせし、当日は様々なアドバイスををもらい、ホームの運営に活用している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 介護保険課や社会福祉課に出向くことは多く、情報を聞いたり意見交換をし、連絡を密に行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 急な変化があったときには必ず電話で連絡を取り、報告をしている。定期的な報告は、面会時にその都度利用者の様子をお知らせしている。請求時には金銭について出納長のコピーやレシートなど、また、便りや写真などを郵送している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | これまで苦情はなく、玄関先には意見箱を設置している。家族には口頭や書類などで苦情に関する第三者窓口の説明をされている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動はなく、利用者へ不安を与えないように考慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会には参加できるよう配慮されており、職員間で互いに参加できるようになっている。研修後は、報告書を提出し、ミーティングで伝達し、共通理解に取り組んでいる。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に参加し、ネットワークづくりに努めている。 | | 今後は管理者のみではなく、職員も積極的に交流の場の機会があることで、これまで以上にケアサービスの向上に取り組めることが期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|---|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族や本人も含めた面談や見学、体験入所を通して、徐々に利用に繋がられるような体制となっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者から気づきや学ぶことが多く、共に生活していく中で関係づくりに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | これまでの趣味や習慣などを大切に考え、一人ひとりの意向や希望を把握し、暮らしの支援を行っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族や本人の意見を聞き、月1回のミーティングで話し合い介護計画の作成をされている。 | | 介護計画がより具体的になるよう、再度話し合い、計画が立案できることを期待される |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 利用者の現状に応じて見直しはされており、評価に関する話し合いの場が設けられている。 | ○ | 課題にあった見直しがされ、記録に残し、新たな計画に活用できることが期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 状況に応じて、医師や家族の意見や希望など、相談を受けながら他の施設やサービスを紹介するなどの支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医に受診が継続できるような支援が行われている。連携医療機関からの訪問があり、定期的な受診支援ができています。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期に向けての指針があり、入居時には家族に説明されている。家族や本人の希望を聞きながら、今後についての話し合いの機会もある。 | | 重度化、終末期に関してのマニュアルなどが用意されていると職員の不安の解消につながるかと思われる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 記録物もきちんと保管され、利用者への言葉かけも職員は大切に受け止めている。 | ○ | 個人情報に関する書類改善・整備が望まれる。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間や入浴時間など、日々の暮らしが利用者一人ひとりのペースに合わせた支援がされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事が楽しみの一つとなるよう、一緒に準備をし、季節の食材や好みなどを考慮しながら食の提供をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日、利用者の好きな時間に入浴が可能となっている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 生活歴を参考に、本人がしたいこと、趣味が継続できるように日々の生活に喜びが持てるように取り組んでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買い物やドライブ、お弁当持参で川や公園に出かけたりと、希望を聞きながら積極的に外出している。バス旅行や近くにコーヒーを飲みに出かけたりもされている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 基本的には鍵はかけないで過ごしているが、安全面を考え玄関のみ施錠している。 | | 外出傾向の利用者へは生活リズムを把握するなどの工夫を職員で話し合い、時間帯を見て少しでも施錠せずに過ごせるように取り組んでいただきたい。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防訓練や消防署からの指導を受けている。災害時に備え、備蓄についても準備がなされている。 | ○ | 災害に関しての職員の意識は高いと感じる。AED購入時の勉強会の開催や防災マニュアルなどの準備があれば職員も安心して、いざという時の対応ができると考えられる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-------------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月2回の体重測定や利用者の状態に応じて水分や食事の摂取量を記録に残している。 | | 今後は食事の栄養バランスについて考えていくことも必要であると思われる。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全体的にゆったりとした共有空間の中に、花や季節の装飾を取り入れ、自由にくつろげるようにソファが置かれるなど、配慮が感じれる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日用品や馴染みの物を持ち込み、利用者一人ひとりが安心して過ごせるような居室となっていた。 | | |